

生活

旬のくだもの 桃
 原産地の中国では果実の中でも特別な存在で、その木は邪気をはらい、その実は不老長生を授けるとされます。

くらしのこよみ
 うつくしいくらしかた研究所

◎ 東京新聞

● 高齢者のがん

膵臓がんを発症した人の生存率は非常に低く、五年生きられる確率は全体の10〜20%といわれています。膵臓は背中側に位置し、なかなか症状が出にくいことも早期発見を困難にしています。



在宅医療のカルテ

八十代のMさんは、腹部の張りや黄疸の症状で検査を受けたところ、進行した膵臓がんであることが分かりました。手術はできない状態であり、痛みや腹水のコントロールを主とした緩和ケアを行うこととなりました。ケアは効果を表し、腹水はみるみる減少。痛みも和らいで、Mさんは自宅で療養しながらデイサービスにも通うことができるようになりました。

進行緩やかな場合も

んは発熱と呼吸困難を訴え、肺炎の診断を受けました。再入院して治療した結果、退院できるまでになりましたが、これを機にものを



診療録を記しながら患者と対話

のみ込む力がなくなり、転倒してけがをしたことなども重なって約一カ月後に亡くなりました。末期の膵臓がんを診断されてか

らは一年余。最期まで穏やかとはいえなかったものの、生存期間がここまで延びたのは、実際にがんの進行が遅かったとも考えられます。当院の診療データで、消化器を中心とした末期がん患者の年代ごとの生存期間(中央値)を比較すると、六十代の二十三日に対して八十代は四十九日と倍以上でした。この結果は、高齢者のがんの進行が緩やかであることを臨床的に裏付けるものと考えています。

高齢者の場合、末期がんであっても、緩和ケアにより比較的長期間、落ち着いた終末期を過ごせる可能性が出てきます。他方、その間に、肺炎など他の疾患にかかる危険性が高まることも注意しておく必要があります。

(川崎高津診療所院長)

次回(二十九日)掲載